

■畑作物の除草剤(小麦)

効果の表示 ◎大 ○中 △小 ×劣る(令和6年度くみあい農作物病害虫・雑草防除ガイドより)
●登録有(農薬メーカーHPより、2024年12月3日現在)

作物名	使用方法	毒性	薬 剤 名	成 分	使用時期	使用量 10a当り
小麦	全面土壌 散布	－	ムギレンジャー乳剤	プロスルホカルブ 46.0% リニュロン 11.5%	【秋まき小麦】 は種後出芽前 (雑草発生前)	300～600ml
					【春まき小麦】 は種後出芽前 (雑草発生前)	400～600ml
	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	－	ガルシアフロアブル	インダノファン 10.0% ジフルフェニカン 4.0%	【秋まき小麦】 は種後～出芽前 (雑草発生前)	150～250ml
					【秋まき小麦】 出芽直前～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	100～200ml
					【秋まき小麦】 小麦4～6葉期 (越冬前)	200～250ml
					【春まき小麦】 小麦1～3葉期 (雑草発生始期)	200ml
		－	ゴーゴーサン乳剤	ペンディメタリン 30%	【秋まき小麦】 播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期)	300～400ml
					【春まき小麦】 播種後～出芽前 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期)	300～400ml
					【春まき小麦】 出芽期～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期)	300～500ml
		－	MCPソーダ塩	MCPAナトリウム塩 19.5%	【秋まき小麦】 麦の幼穂形成期(春季) 但し収穫45日前まで	300g (水量25～100ℓ)
					【春まき小麦】 麦の5葉期 (雑草生育初期) 但し収穫45日前まで	200～300g (水量25～100ℓ)
		－	キタシーブフロアブル	ジフルフェニカン 7.4% ピロキサスルホン 7.4%	播種後～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	80～100ml
		－	エコパートフロアブル	ピラフルフェンエチル 2%	【秋まき小麦】 小麦2～4葉期	50～75ml
					【秋まき小麦】 春季(雑草発生始期) (止葉抽出前まで) 但し収穫45日前まで	50～75ml
					【春まき小麦】 小麦2～4葉期 (広葉雑草2～4葉期) 但し収穫45日前	50～100ml
					【春まき小麦の初冬まき栽培】 春季(止葉抽出前まで) (広葉雑草4葉期まで) 但し収穫45日前まで	50～75ml
		－	バサグラン液剤	ベンタゾンナトリウム塩 40%	【秋まき小麦】 麦の幼穂形成期(春季) 但し収穫45日前まで	100～150ml
					【春まき小麦】 小麦5葉期 (雑草3～5葉期) 但し収穫45日前まで	100～200ml

使用回数	対象雑草			除草効果及び処理限界									防除上の注意事項
	一年生雑草	一年生イネ科雑草	多年生雑草	レドトツブ	シバムギ	スズメノカタビラ	アブラナ科	シロザ	タデ科	スカシタゴボウ	ハコベ	ツユクサ	
1回	◎					◎						◎	・少量散布(25～50L/10a)の場合は専用ノズルを使用し、土壌の全面に均一に散布する ・砂壤土では黄化、生育抑制を生じる場合があるので、登録範囲内の低めの薬量で使用する ・碎土、生徒はていねいにおこない、覆土深は必ず2～3cmとし、軽く鎮圧した後に散布する
1回	●	◎				◎		◎	○	◎	◎	×	・砂土および過湿で排水不良圃場での使用を避ける。 ・麦の葉身に白化が見られることがあるが回復する。 ・秋まき小麦においてイヌカミツレが多発する圃場では使用基準の範囲内で高薬量で使用する。 ・水量は10aあたり70～100L(春播きは70L)
1回	●	◎				○		◎	◎	△	◎	×	・雑草の発生前から出芽期に有効であるが、生育が進むと効果が低下する。 ・碎土整地は丁寧に行い、覆土は均一にする。 ・土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので散布水量を増すか、降雨後に散布する。 ・スズメノカタビラに対しては、低薬量で除草効果が劣る場合がある。
1回		×						◎	○	◎	◎ △ ○	○	・高温、晴天時で生育盛んな時程効果が高いので、日中気温が20℃以上の好天の日を選び散布する。 ・クローバ混播の場合は、クローバに薬害が生ずるのでクローバ本葉の2葉期以降に散布する。 ・散布後の降雨により、除草効果が劣るので、好天の続く見越しの日に散布。
1回	●	◎				◎		◎	◎	◎	◎		・砂土系で透水性のよい圃場や多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。 ・覆土はできるだけ均一、覆土深を2～3cmとする。 ・水稻、大麦、ソルガムに薬害を生じるおそれがあるため、散布した当年または翌年の栽培を避ける。 ・麦の葉身に一過性の白斑を生じることがある。
秋まき小麦 2回		×						◎	◎	◎	◎	×	・散布後白斑点を生じることがある。薬害の恐れがあるので、小麦止葉抽出前までに散布する。 ・緑肥用クローバを播種する場合は、本剤の散布後10日以降には種する。
1回	●	×						◎	◎	◎	◎	△	・雑草が大きくなると効果が劣る。 ・緑肥用クローバを播種する場合は、本剤の散布後10日以降には種する。 ・散布後の降雨により、除草効果が劣るので、好天の続く見越しの日に散布。 ・異常高温下の散布は避ける。